

基準 4 学生の受け入れ

(1) 観点ごとの分析

観点 4 - 1 - : 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜(例えば、準学士課程入学者選抜、編入学学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる)の基本方針などが記載されたアドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

(観点に係る状況)

平成 17 年度に本校全体及び各学科の教育の目的に沿って入試委員会、運営委員会を経て教員会議にてアドミッション・ポリシーを作成し、本校教職員には、教員会議で報告するとともに本校ホームページに記載することで周知している(資料 4 - 1 - - 1, 資料 4 - 1 - - 2)。また対外的にも将来の学生を含め社会に対してアドミッション・ポリシーを本校ホームページに記載することで周知している。

また、アドミッション・ポリシーは入試委員会において年度ごとに精査・見直しすることができる(資料 4 - 1 - - 3)。見直されたアドミッション・ポリシーは運営委員会を経て教員会議にて決定される。

(分析結果とその根拠理由)

本校教職員には、教員会議で報告するとともに本校ホームページに記載することで周知している。対外的にも将来の学生を含め社会に対してアドミッション・ポリシーを本校ホームページに記載することで周知している

以上のことから、教育の目的に沿って、アドミッション・ポリシーが明確に定められ、学校の教職員及び将来の学生を含め社会に公表されているといえる。

資料 4 - 1 - - 1

(報告事項)**1. 現代的教育ニーズ取組支援プログラムに申請する「自立型地方都市再生のための人材育成支援」について**

校長から、報告資料 1 に基づき報告があった。

2. 現代的教育ニーズ取組支援プログラムに共同申請する「創造性豊かな実践的技術者育成コースの開発」について

校長から、報告資料 2 に基づき報告があった。

3. 平成 17 年度春の叙勲受章について

校長から、報告資料 3 に基づき元校長黒澤昭氏が瑞宝中綬章を受章されたことの報告があった。

4. 弓削商船高等専門学校アドミッション・ポリシーについて

校長から、報告資料 4 に基づき本校のアドミッション・ポリシーについて説明があった。

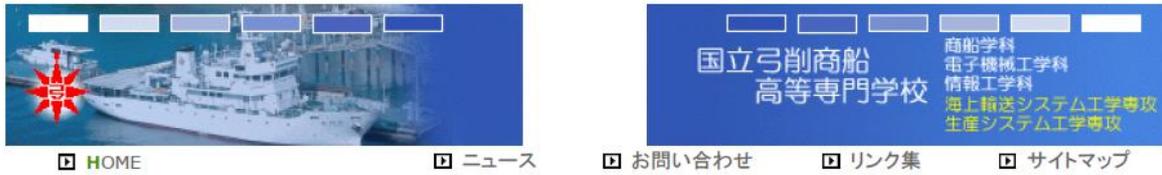
5. その他

校長より報告

- ・学寮の改修工事の見通しが予算的に決まったことの報告があった。
- ・専攻科棟の概算要求のヒアリングが始まっている。本校も機構のヒアリングが済んだ。十分説明して平成 18 年度に付くよう努力したい。
- ・四国地区校長・事務部長会議において、教員の人事交流についての決定事項について報告があった。2 年前から検討していた四国地区高専間独自の教員人事交流については、四国高専独自の教員人事交流では予算の裏付けがないため、内容について多少違いはあるが、当面、機構本部の教員人事交流に乗ってスタートし、様子をみる方向で決定した。

出典：運営委員会議事概要（平成 17 年 5 月）

資料 4 - 1 - - 2



弓削商船高等専門学校 ◆

☐ メインメニュー

- ホーム
- ニュース
- 学校案内
- 本校の環境への取り組み
- 入試情報・アドミッションポリシー
- シラバス
- 学事予定表
- FAQ
- ダウンロード
- リンク集
- 本校へのアクセス
- お問い合わせ

☐ 学内WWWサーバ

- 情報処理教育センター
- 図書館
- 白砂寮
- 同窓会
- WebMail
- MyWeb(学内ポータル)
- 文書公開サーバ

☐ 学生向け情報

- 学生連絡
- 授業変更

☐ 検索

高度な検索

ホーム > 入試情報・アドミッションポリシー

本校は求めています。このような入学生を!

弓削商船高専は、104年の伝統を生き、一貫したカリキュラムによって専門的知識を有し実践力と研究力を備え育成します。特に「国際海運技術」・「ものづくり技術」・「IT・情報関連技術」を中心に、将来の科学技術社会を担う輩出します。
また、海の自然の中で、豊かな人間性と創造力を備えた技術者を育成し、地域社会に貢献することも、本校の大きな特徴です。
従って、次のような“学生のみなさん”を歓迎します。

学生募集関係の資料はこちら

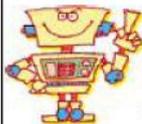


■ 商船学科



船や海に強い興味を持っている人
好奇心や探究心が強い人
自立心が強く根気力のある人

■ 電子機械工学科



機械いじり・ものづくりに興味がある人
電気・電子工作に興味がある人
コンピュータを使った「もの」の操作に興味がある人

■ 情報工学科



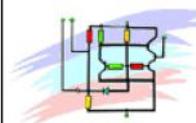
コンピュータを使いこなしたい人
コンピュータのしくみに興味がある人
コンピュータで何かをやろうと考えている人

■ 海上輸送システム工学専攻



工学的素養を身につけ海事関係分野で活躍したい人
海上輸送管理技術を身につけ社会で活躍したい人

■ 生産システム工学専攻



手と頭脳が同時に働く実践的技術者をを目指す人
コミュニケーション能力と国際感覚を備えたい人

出典：本校ホームページ

資料 4 - 1 - - 3

弓削商船高等専門学校中期計画書

事 項	平成 16 年 度 計 画 内 容	平成 16 年 度 実 施 状 況	対応委員会
1 国立高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 目標に掲げる内容・水準を達成するための教育指導等 ① 入学者選抜 ○ 国立高等専門学校にふさわしい者を選抜するための入試方法に関する具体的な方策 ア 社会的ニーズや地域特性の変化に対応したアドミツジョンポリシーの定期的な見直し	アドミツジョンポリシーの精査、見直し 情報収集と意見の集約 新入生実力テストの実施と評価 絶対評価に関する追跡調査	本校のアドミツジョンポリシーの原案を作成した。各種委員会にてさらに精査し、H17年度にHP等に掲載することになった。 新入生実力テストを実施し、報告書を作成した。また、入試委員会にて報告書の概略を説明し、18年度の入試に活用した。	入試委員会
イ 新入生実力テストの実施と評価 ・ 年1回の実施と報告書の作成を行う。	新入生実力テストの実施と評価 絶対評価に関する追跡調査	推薦入学者の追跡調査を行い報告書を作成した。報告書に基づいて平成18年度の選抜方法の検討を行った。	入試委員会
ウ 選抜方法の検討 ・ 入学生の追跡調査を行い、選抜方法についての検討を行う。	選抜方法の検討 追跡調査	推薦入学者の追跡調査を行い報告書を作成した。報告書に基づいて平成18年度の入試に活用した。	入試委員会
エ 学校PRの拡充強化	情報の収集及びPR拠点の精査	高松地区を重点地区に指定して、同窓会との連携で応募者増加に結び付けた。	入試委員会 校報委員会
オ 商船学科4年生への編入学 ・ 教育課程の改善を行い、編入学と第一種養成施設との整合性を検討する。	編入学と第一種養成施設との整合性を検討	編入学と第一種養成施設基準との整合性に関する資料を作成した。その結果、高校から商船学科への編入が可能であることがわかった。	入試委員会 教務委員会 入試委員会

出典：本校中期計画

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

本科 1 年生の入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜に分けられる。推薦入試では、本校推薦選抜の基本方針に基づきアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している(資料 4 - 2 - - 1)。一方学力選抜では、全国立高等専門学校で共通の問題(資料 4 - 2 - - 2)を使用して英語、国語、数学の 3 科目行われている。また、学力選抜でも推薦選抜と同様に面接が行われ、各学科のアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している(資料 4 - 2 - - 3)。

編入学及び専攻科学生の入学者選抜でも同様にアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している(資料 4 - 2 - - 4, 資料 4 - 2 - - 5)。

(分析結果とその根拠理由)

本科生、編入学生及び専攻科生についていずれも面接試験を行うことにより、アドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している。

以上のことから、アドミッション・ポリシーに沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているといえる。

資料 4 - 2 - - 1

会議終了後回収

取扱注意

平成 1 8 年度
入学者選抜実施要領
推薦選抜

弓削商船高等専門学校

出典：平成 18 年度入学者選抜実施要項（推薦）

資料 4 - 2 - - 2

平成 17 年度入学者選抜学力検査問題

英 語

(注 意)

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題用紙は 1 ページから 11 ページまでである。
・検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 答えは、すべて解答用紙に記入すること。
- 4 解答用紙の総得点欄および得点欄には記入しないこと。

◇M2(377-16)

国 語

平成十七年度入学者選抜学力検査問題

(注 意)

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題用紙は 1 ページから十四ページまでである。
・検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 答えは、すべて解答用紙に記入すること。
・特に指示がない限り、答えは現代仮名遣いによるものとする。
- 4 解答用紙の総得点欄および得点欄には記入しないこと。

◇M1(377-1)

平成 17 年度入学者選抜学力検査問題

数 学

(注 意)

- 1 問題用紙は指示があるまで開かないこと。
- 2 問題用紙は 1 ページから 10 ページまでである。
・検査開始の合図のあとで確かめること。
- 3 解答用紙の総得点欄および得点欄には記入しないこと。
- 4 答えは、すべて解答用紙に記入し、答えが円周率 π や根号を含む数になったときは、小数に直さず答えること。
- 5 定規、コンパス、ものさし、分度器および計算機は用いないこと。

◇M3(377-28)

出典：平成 17 年度入学者選抜学力検査問題

資料 4 - 2 - - 3

取扱注意

平成 18 年度
入学者選抜実施要領
学力選抜

弓削商船高等専門学校

出典：平成 18 年度入学者選抜実施要項（学力）

資料 4 - 2 - - 4

取扱注意

平成 18 年度

編 入 学 試 験 実 施 要 領

弓削商船高等専門学校入学試験委員会

出典：平成 18 年度編入学試験実施要

資料 4 - 2 - - 5

平成18年度 弓削商船高等専門学校専攻科学生募集要項

I 募集人員

専攻名	募集人員
生産システム工学専攻	8名

II 選抜方法

選抜は、「推薦による選抜」、「学力検査による選抜」及び「社会人特別選抜」の三つの方法で行います。

推薦による選抜

1. 選抜の実施方法

推薦書、調査書、健康診断証明書並びに本校で実施する口頭試問(プレゼンテーションを含む)及び面接の結果を総合して行います。

2. 出願資格

(1) 次のいずれかに該当する者とし、在学又は出身の学校長の推薦を得た者としします。

- ・ 高等専門学校を卒業した者(平成18年3月卒業見込みの者を含む。)
- ・ 短期大学を卒業した者(平成18年3月卒業見込みの者を含む。)
- ・ 専修学校の専門課程を修了した者又は平成18年3月修了見込みの者のうち、学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者。

(2) 人物が優れ、本校入学の意志が堅い者

3. 口頭試問及び面接の日時、場所

- (1) 日 時 平成17年6月10日(金) 午前10時30分～
 (2) 場 所 弓削商船高等専門学校

4. 健康診断

提出された健康診断証明書について、本校が特に必要と認める者には改めて健康診断を行います。

5. 身体基準

修学に支障がないこと。

学力検査による選抜

1. 選抜の実施方法

本校が実施する学力検査(専門科目)の成績、調査書、健康診断証明書及び面接(英語、数学の口頭試問を含む)の結果を総合して行います。

2. 出願資格

出典：平成18年度弓削商船高等専門学校専攻科学生募集要項

観点 4 - 2 - : アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

(観点に係る状況)

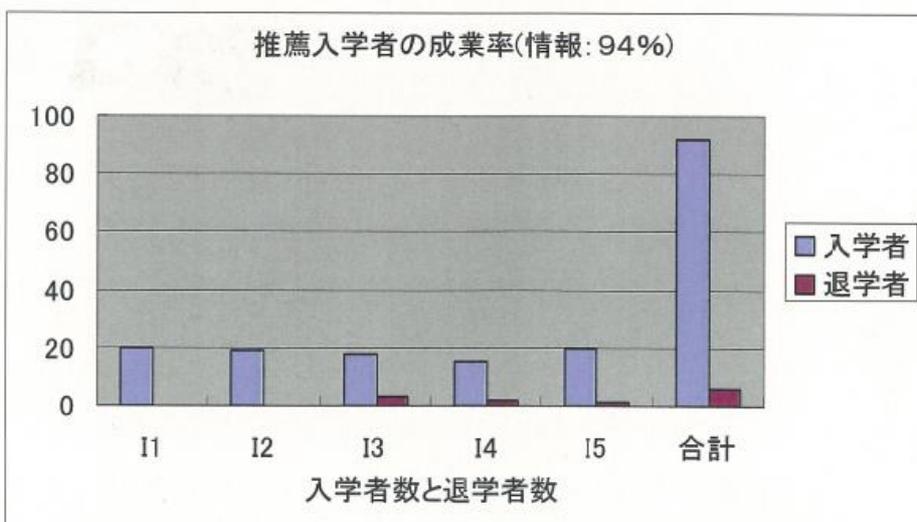
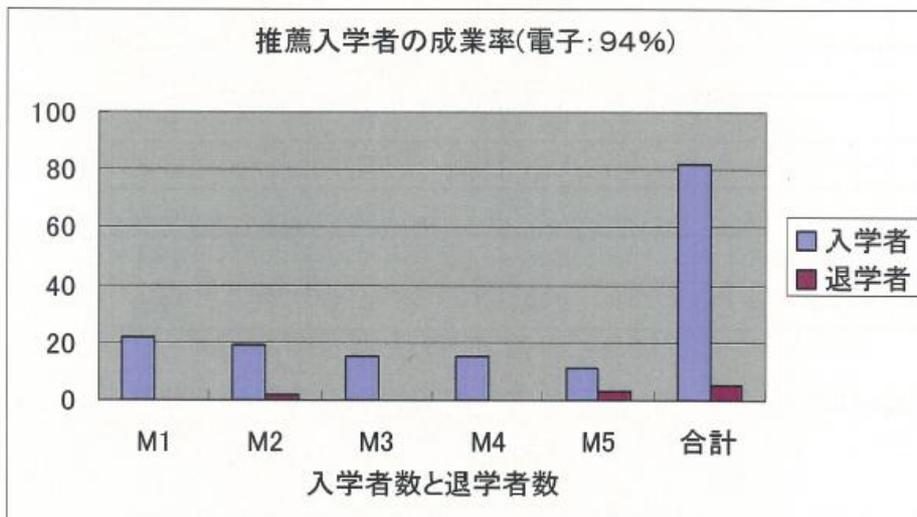
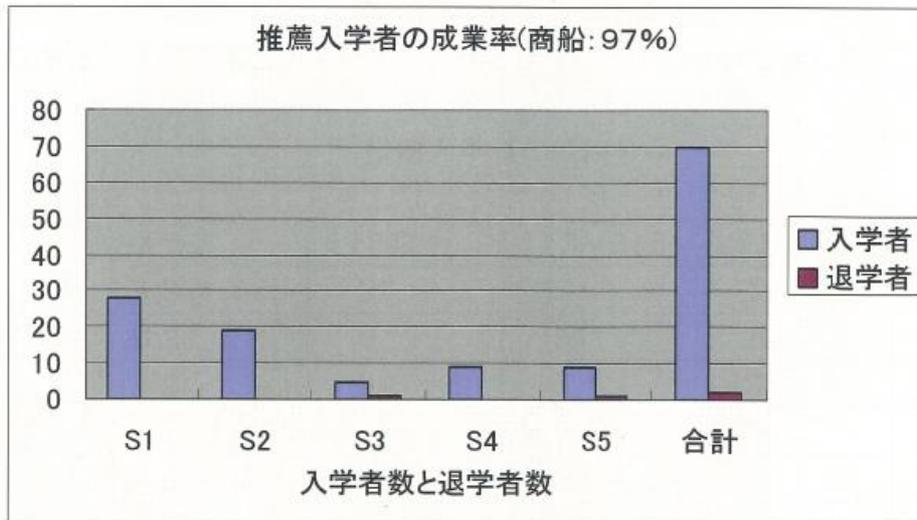
各学科において、アドミッション・ポリシーに沿った学生が入学しているかを検討し、さらに入試委員会において検討している。平成 16 年度に推薦及び学力試験での入学者に対して、それぞれ成績に対する追跡調査を実施した(資料 4 - 2 - - 1)。その結果から推薦での入学者に対しては、成業率が学力試験入学者よりも高いことが明らかとなった。その結果を基に平成 17 年度入試委員会において審議し、従来よりも推薦入学者を多くすることとした。これに伴いアドミッション・ポリシーに沿った学生を入学させるために面接方法及び評価に関して改善を行った。平成 18 年度入試は、前年度より面接評価を改善して行った(資料 4 - 2 - - 2)。

(分析結果とその根拠理由)

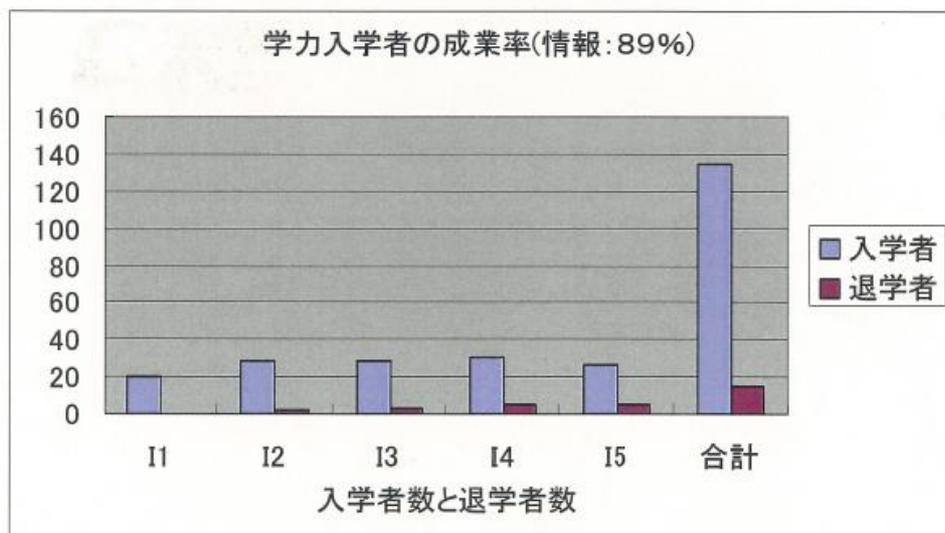
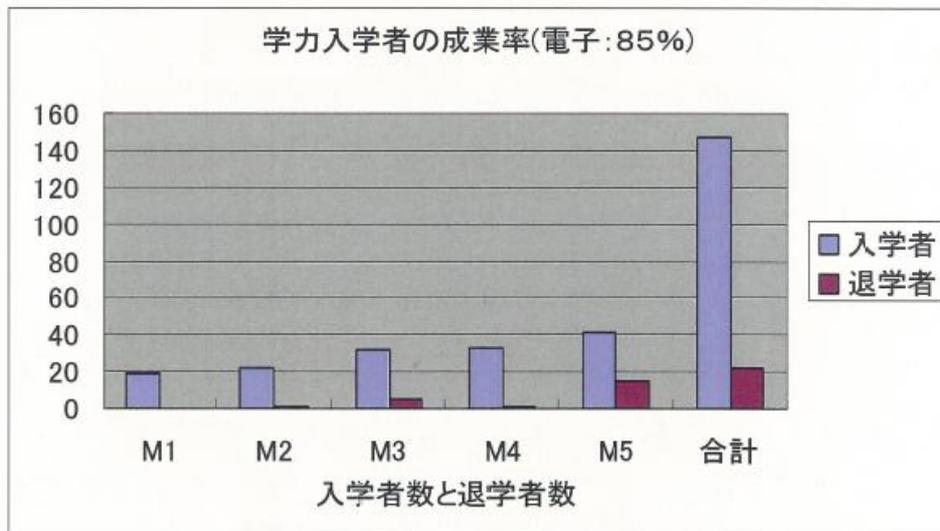
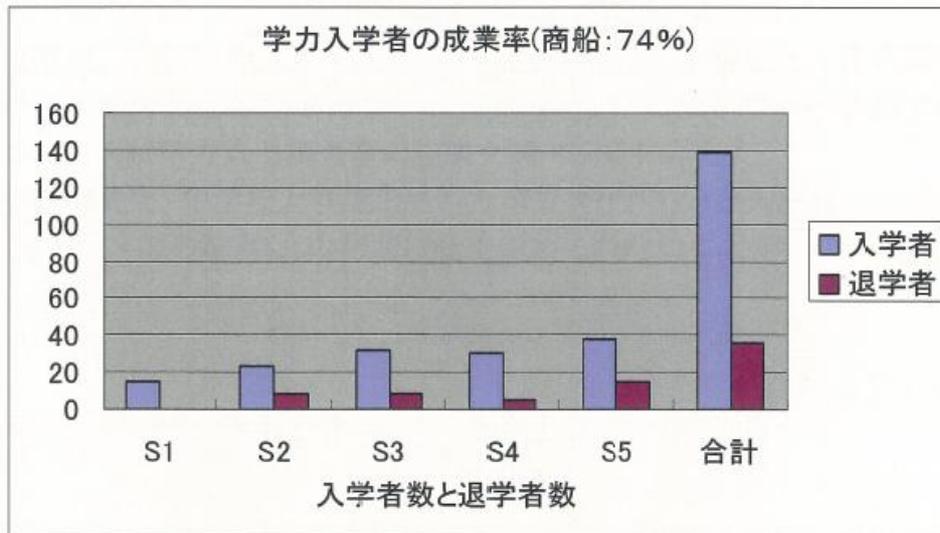
推薦及び学力試験での入学者に対して、それぞれ成績に対する追跡調査を実施した。その結果を基に入試委員会において審議し、従来よりも推薦入学者を多くすることとした。これに伴いアドミッション・ポリシーに沿った学生を入学させるために面接方法及び評価に関して改善を行った

以上のことから、アドミッション・ポリシーに沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているといえる。

資料 4 - 2 - - 1



出典：在校生追跡調査



出典：在校生追跡調査

資料4 - 2 - - 2

平成 1 8 年 度 面 接 記 録 書

検査地 _____

検査員氏名 _____

受験 番号	受験者氏名	評 定 の ポ イ ン ト					総合 評点
		態 度	理解力	積極性	創造性	アドミッションポリシーへの適合性	
		面接中の応答ぶりや態度の観察を通して、はじめに応答しているか、表情や動作に落ち着きがあるか、身なりが整っているかなどについて評定を行う。	質問を理解し的確に答えているか、筋道よく、要点を簡潔に話すことが出来るかなどについて評定を行う。	率先してやろうとする意欲があるか、意見や考えを進んで述べるか、中学生らしい活気があるかなどについて評定を行う。	不慣れな課題でも興味を示し、自ら考え、解決しようとする態度を備えているかなどについて評定を行う。	各学科のアドミッションポリシーに適合しているかなどについて評定を行う。	5
							4
							3
	特 記 事 項	評 定 項 目					
		態 度	理解力	積極性	創造性	アドミッションポリシーへの適合性	2
		5	5	5	5	5	1
		4	4	4	4	4	
		3	3	3	3	3	
		2	2	2	2	2	
		1	1	1	1	1	

出典：平成 18 年度面接記録書

観点 4 - 3 - : 実入学者が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。
また、その場合には、これを改善するための取り組みが行われているなど、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

本校では、学力試験においては受験生の選択の幅を広くするため、県立高校の合格発表を待つ形式で入学の手続きを行っている。このため入学試験の合格者は定員以上に出している。従って年により入学定員と実入学者が異なるが、過去 5 年においては、学校全体の定員 120 名に対し、多くても 128 名であり、定員に対する超過は 10%以下となっている。また、過去 5 年において定員以下となったことはない(資料 4 - 3 - - 1, 資料 4 - 3 - - 2)。

入学定員と実入学者の大幅な相異を避けるための方策として、入試委員会、専攻科委員会および P R 委員会により適正な実入学者の確保を目指し、毎年検討を重ねている。これら委員会の成果として、これまで、推薦選抜において各学科とも実入学者の 50%程度確保した(資料 4 - 3 - - 1)。他にも受験生の在籍する中学校へ入学意思の聞き取り調査を実施し、過去のデータを使用して合格者数を算出している。

また、専攻科海上輸送システム専攻においては、定員の 2 倍の学生を入学させているが、施設及び教員も十分対応している。

さらに本校は商船学科という特異な学科から全国各地から入学者がおり(資料 4 - 3 - - 3)、中学校 P R にも力を入れている。中四国及び関西の中学校を中心に約 270 校を訪問している(資料 4 - 3 - - 4)。他にも近隣中学校の進路説明会にも参加している(資料 4 - 3 - - 5)。

(分析結果とその根拠理由)

入試委員会、P R 委員会を中心に適正な実入学者の確保に関する検討を毎年行い、入学者数の適正化を図っている。その結果、入学定員 120 名に対する超過は、過去 5 年間 10%以下になっている。

以上のことから、実入学者が入学定員を大幅に超える状況となっておらず、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているといえる。

資料4 - 3 - - 1

年度 Year	学 科 名 Department	入学定員 Authorized students	全志願者数 Applicants	推薦志願者数内数 Applicants of Recommendation	志願倍率 Magnification	受験者数 examinees	合格者数 Successful Applicants	入学者数 Incoming students		
								学 力 Achievement	推 薦 Recommendation	計 Total
平成17年度	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40 名	79(7) 名	49(6) 名	2.0 倍	78(7) 名	48(3) 名	12(0) 名	30(3) 名	42(3) 名
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	55(3)	30(2)	1.4	55(3)	53(4)	19(1)	22(2)	41(3)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	83(28)	32(13)	2.1	80(26)	69(22)	19(7)	18(9)	37(16)
	計 Total	120	217(38)	111(21)	1.8	213(36)	170(29)	50(8)	70(14)	120(22)
平成16年度	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	55(1)	35(1)	1.4	54(1)	47(1)	15(0)	28(1)	43(1)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	62(6)	28(1)	1.6	60(6)	54(6)	19(1)	22(1)	41(2)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	98(39)	43(16)	2.5	96(37)	73(29)	20(6)	20(10)	40(16)
	計 Total	120	215(46)	106(18)	1.8	210(44)	174(36)	54(7)	70(12)	124(19)
平成15年度	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	61(8)	19(2)	1.5	60(8)	51(7)	21(2)	19(2)	40(4)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	69(5)	25(0)	1.7	69(5)	56(4)	22(2)	19(0)	41(2)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	87(35)	31(11)	2.2	84(33)	76(28)	28(8)	18(6)	46(14)
	計 Total	120	217(48)	75(13)	1.8	213(46)	183(39)	71(12)	56(8)	127(20)

※ () 内は、女子で内数を示す。

出典：平成17年度学校要覧

資料4 - 3 - - 2

年度 Year	学 科 名 Department	入学定員 Authorized students	全志願者数 Applicants	推薦志願者数内数 Applicants of Recommendation	志願倍率 Magnification	受験者数 examinees	合格者数 Successful Applicants	入学者数 Incoming students		
								学 力 Achievement	推 薦 Recommendation	計 Total
平成14年度 2002	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40 名	40(2) 名	4(0) 名	1.0 倍	40(2) 名	40(2) 名	29(1) 名	4(0) 名	33(1) 名
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	69(4)	15(0)	1.7	67(4)	61(4)	32(4)	15(0)	47(4)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	93(49)	27(14)	2.3	91(47)	85(45)	28(15)	18(10)	46(25)
	計 Total	120	202(55)	46(14)	1.7	198(53)	186(51)	89(20)	37(10)	126(30)
平成13年度 2001	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	52(7)	9(0)	1.3	51(7)	41(6)	29(6)	9(0)	38(6)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	73(4)	18(2)	1.8	72(4)	54(4)	29(1)	15(2)	44(3)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	102(38)	20(11)	2.6	99(36)	82(29)	31(12)	15(9)	46(21)
	計 Total	120	227(49)	47(13)	1.9	222(47)	177(39)	89(19)	39(11)	128(30)
平成12年度 2000	商 船 学 科 Maritime Technology Department	40	49(4)	9(1)	1.2	49(4)	47(4)	34(3)	9(1)	43(4)
	電子機械工学科 Electronic Mechanical Engineering Department	40	72(7)	11(1)	1.8	72(7)	65(3)	30(4)	11(1)	41(5)
	情報工学科 Information Science and Technology Department	40	121(69)	41(23)	3.0	118(67)	72(41)	24(15)	20(12)	44(27)
	計 Total	120	242(80)	61(25)	2.0	239(78)	184(48)	88(22)	40(14)	128(36)

※ () 内は、女子で内数を示す。

The figures in parentheses are women's students, included in the figures below.

出典：平成14年度学校要覧

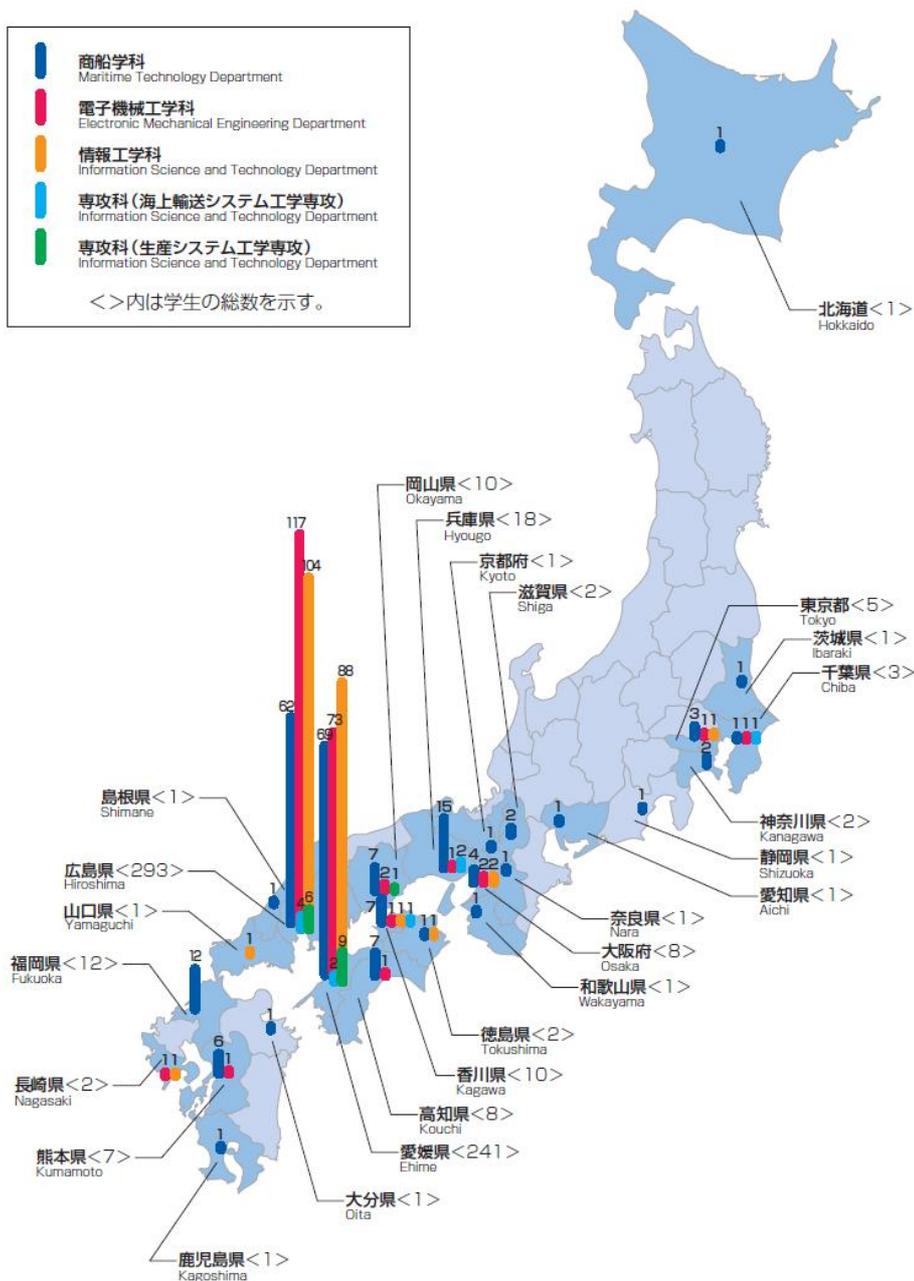
資料 4 - 3 - - 3

General Situation of Students 学生の概況

出身学校都道府県別学生数

Home Address

(平成18年5月1日現在)
As of May 1, 2006



資料 4 - 3 - - 4

2. 平成16年度のPR活動

1. PR訪問

- (1) 中学校： 愛媛県、香川県、高知県、広島県、岡山県、兵庫県、瀬戸内海東部島嶼部
(平成16年度追加地域) 島根県北部一帯、瀬戸内海西部島嶼部、高知県東部沿岸および北部山間部
約300校
- (2) 高校(主として工業高校)： 愛媛県、広島県、岡山県西部(倉敷、笠岡) 約15校
- (3) 学習塾： 尾道、三原、福山、今治 約50塾

2. 入学御礼訪問および説明会参加

中学校：越智郡島嶼部、因島、尾道、向島、今治 (御礼訪問：33校、説明会参加：25校)

3. PR資料送付

- (1) 中学校： 京都以西の西日本3575校
(平成16年度追加地域) 横浜市沿岸3区内、横須賀市(東京湾西岸一帯) 約60校
- (2) 高校： 中国、四国、九州 約200校
- (3) 学習塾： 尾道、三原、福山、今治、高松、松江 約685塾
- (4) 海洋少年団連盟： 全国50箇所
- (5) ボーイスカウト： 約50箇所
- (6) 海員会館： 約40箇所
- (7) 船員保養所： 約50箇所

4. その他のPR活動

練習船弓削丸体験航海での本校PR(まなびピア2004愛媛、1日船長、教員研修航海、商船祭)
弓削丸実習航海寄港地でのPR資料配布
学生の夏休み帰省時の出身中学校訪問(1~2年生)
ロボコン、プロコン、ソーラーボートへの積極的参加
本校外国人留学生の近隣中学校への異文化交流派遣
オープンカレッジ(学校見学、体験入学)
共同事業(山口県徳地少年自然の家と)
ホームページの刷新と本校学事のリアルタイム紹介
各種公開講座の実施(洋上講座、子供水泳講座、子供絵画教室など)

5. PR資料展示・掲示場所の確保

近島の港務所・港待合室、近隣航路の定期船室内
公共施設(近隣市町村役場、観光案内所、しまなみ交流館、国民宿舎弓削ロッジなど)

6. マスメディア等の活用(学校行事、入試関連)

近隣市町村自治体広報誌、新聞、ケーブルテレビなど

7. PR資料の作成

学校案内冊子、学生募集ポスター、学校リーフレット、商船学科リーフレット、学寮リーフレット、
本校概要紹介チラシ、商船だより、航空写真(校舎、学寮)、学科紹介CD(商船学科)、その他

出典：平成16年度自己点検評価報告書

資料 4 - 3 - - 5

平成 16 年度中学校等 PR 訪問実施状況 (H16. 9. 30 現在)

(1) 中学校訪問

① 入学御礼訪問 (6 月—7 月)

濱中	伯方、大島、大三島	1 日×1 人
村上ケ	弓削、生名、岩城	3 日×1 人
横田	今治とその周辺	3 日×1 人
友田、小川	因島、生口島	1 日×2 人
松下	尾道	1 日×1 人
藤本	向島	1 日×1 人
豊田	沼隈千年中、福山内海中	1 日×1 人
小川	広島	1 日×1 人

② 説明会参加 (秋)

濱中、藤井、多田ミ	伯方、大島、大三島	5 日×2 人
村上ケ、田房	弓削、岩城、生名	3 日×2 人
横田、友田、高岡、中山、他	今治市内とその周辺	10 日×2 人
友田、小川、多田マ、藤本、他	因島市 (6 月土生、三庄)	5 日×2 人
小川、高岡	尾道市、向島	2 日×1 人
多田マ、中	南宇和 (城辺、御荘)	1 泊 2 日×2 人

③ PR 出張訪問 (夏—秋)

濱中	越智郡島嶼部	1 日×1 人
横田	松山、北条、伊予	10 日×1 人
渡部	松山東部 (重信、川内、他)	1 泊 2 日×1 人
多田ミ	東予、丹原、小松、西条	1 日×1 人
中家	新居浜、伊予三島、川之江	1 泊 2 日×1 人
多田マ	愛媛県南予	2 泊 3 日×1 人
多田マ	高知県西部	2 泊 3 日×1 人
葛目	高知県北部、安芸市～室戸市	2 泊 3 日×1 人
勘久保	香川県東部	2 泊 3 日×1 人
児玉	観音寺、多度津、丸亀、坂出	2 泊 3 日×1 人
中、他	瀬戸内西部諸島 (はまかぜ利用)	1 泊 2 日×3 人
松下、他	笠岡諸島、家島、他 (はまかぜ利用)	2 泊 3 日×3 人
田頭	因島市	1 日×1 人
松下	尾道市	1 日×1 人
藤本	向島	1 日×1 人
神谷	三原市	1 日×1 人
勘久保	広島県御調郡、世羅郡、賀茂郡	1 日×1 人
山尾	福山市北部、神辺	1 日×1 人
塚本	福山市中央部	1 日×1 人
豊田	福山市西部、沼隈郡、他	2 日×1 人
小川	府中市、芦品郡、福山の一部	1 日×1 人
中山	井原、矢掛、真備、総社市	1 日×1 人
葛目	笠岡、里庄、鴨方、金光、玉島	1 日×1 人
松下	倉敷市、玉野市、岡山市の一部	1 泊 2 日×1 人
松下	備前市、邑久郡、和気郡	1 泊 2 日×1 人
松永	赤穂市、相生市、姫路市、揖保郡	3 泊 4 日×1 人
松永	淡路島	3 泊 4 日×1 人
村上ト	西宮市、芦屋市、尼崎市、宝塚市、他	2 泊 3 日×1 人
石橋	島根県北部一円	3 泊 4 日×1 人
上江	鹿児島市	3 泊 4 日×1 人

出典：平成 16 年度第 3 回広報委員会資料

(2) 学習塾訪問 (夏-秋)

豊田	福山市西部	1日×1人
小川	福山市北部	1日×1人
山尾	福山市中央部北	1日×1人
高岡	尾道市、三原市	2日×1人
多田ミ	今治市	1日×1人

(3) 高等学校編入学PR訪問 (春-夏)

勘久保	愛媛県東部	1日×1人
横田	愛媛県西部	1日×1人
田頭	広島県、岡山県	3日×1人

(4) 在校生の出身中学校訪問 (夏休み中)

1～2年生全員

(5) その他

①電話での御礼と近況報告

多田マ

兵庫県山崎南中 (初めて2名受験全員合格)

(備考) 場合により、本校元教師・非常勤講師・卒業生・同窓会支部のPR活動への協力要請を行う。

出典：平成16年度第3回広報委員会資料

中学校説明会開催予定日と担当者

10月6日現在

(1) 因島市 (友田、小川、多田マ、藤本、他)

土生中	6/16 (水)		友田、小川
三庄中	7/14 (木)		友田
因北中	10/26 (火)	13:50-14:05	(13:30校長室)
重井中	11/10 (水)		
田熊中	11/19 (金)	14:35-14:55	

(2) 弓削、岩城、生名 (村上ケ、田房)

生名中	9/24 (金)	11:20-11:35	村上ケ、田房
岩城中	10/18 (月)	14:45-15:00	村上ケ、田房
弓削中			田房

(3) 伯方、大島、大三島 (濱中、藤井、多田ミ)

宮窪中	10/14 (木)	13:30-13:45	多田ミ (濱中)
伯方中			藤井セ
西伯方中			藤井セ
大三島中			濱中
上浦中			濱中

(4) 今治市内とその周辺 (横田、友田、高岡、中山、他)

桜井中	10/13 (水)	14:25-14:45	
今西中	10/22 (金)	14:15-14:35	
北郷中	10/22 (金)	14:45-15:00	
立花中	10/28 (木)	14:50-15:10	
美須賀中	11/4 (木)	14:30-14:45	
朝倉中	11/5 (金)		
玉川中	11/15 (月)	午後	
近見中			
南中			
日吉中			

(5) 尾道市、向島 (小川、高岡)

百島中	10/12 (火)	15:10-15:30	小川
向東中	10/19 (火)	14:25-14:40	小川
日比崎中			高岡、小川

(6) 南宇和 (多田マ、中)

城辺中	7/5 (月)		多田マ
御荘中	7/12 (月)		中

(7) その他

出典：平成16年度第3回広報委員会資料

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

過去5年においては、学校全体の定員120名に対し、多くても128名であり、定員に対する超過は10%以下となっている。また、過去5年において定員以下となったことはない。

推薦選抜において商船学科及び電子機械工学科において実入学者の50%程度確保し、よりアドミッション・ポリシーに沿った学生を確保している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準4の自己評価の概要

平成17年度に本校全体及び各学科の教育の目的に沿って入試委員会、運営委員会を経て教員会議にてアドミッション・ポリシーを作成し、本校教職員には、教員会議で報告するとともに本校ホームページに記載することで周知している。本科1年生の入学者の選抜は、推薦選抜と学力選抜に分けられる。推薦入試では、本校推薦選抜の基本方針に基づきアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適性を厳正に審査している。一方学力選抜では、全国立高等専門学校で共通の問題を使用して英語、国語、数学の3科目行われている。また、学力選抜でも推薦選抜と同様に面接が行われ、各学科のアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適正を厳正に審査している。

編入学及び専攻科学生の入学者選抜でも同様にアドミッション・ポリシーに沿って受験者の適正を厳正に審査している。

平成16年度に推薦及び学力試験での入学者に対して、それぞれ成績に対する追跡調査を実施した。その結果から推薦での入学者に対しては、成業率が学力試験入学者よりも高いことが明らかとなった。その結果を基に平成17年度入試委員会において審議し、従来よりも推薦入学者を多くすることとした。これに伴いアドミッション・ポリシーに沿った学生を入学させるために面接方法及び評価に関して改善を行った。

本校では、受験生の選択の幅を広くするため、県立高校の合格発表を待つ形式で入学の手続きを行っている。このため入学試験の合格者は定員以上に出している。従って年により入学定員と実入学者が異なるが、過去5年においては、学校全体の定員120名に対し、多くても128名であり、定員に対する超過は10%以下となっている。また、過去5年において定員以下となったことはない。

入学定員と実入学者の大幅な相異を避けるための方策として、入試委員会、専攻科委員会およびPR委員会により適正な実入学者の確保を目指し、毎年検討を重ねている。これら委員会の成果として、これまで、推薦選抜において各学科とも実入学者の50%程度確保した。他にも受験生の在籍する中学校へ入学意思の聞き取り調査を実施し、過去のデータを使用して合格者数を算出している。

また、専攻科海上輸送システム専攻においては、定員の2倍の学生を入学させているが、施設及び教員も十分対応している。

さらに本校は商船学科という特異な学科から全国各地から入学者がおり、中学校PRにも力を入れている。中四国及び関西の中学校を中心に約270校を訪問している。他にも近隣中学校の進路説明会にも参加している。